

プロジェクト名: 伝統工芸の在り方を考えるプロジェクト

探求課題	解決方法の仮説	仮説の検証結果	次年度に向けて
若い世代に会津漆器に親しんでもらうには？	会津漆器の技術を活用した、主に子ども向けの楽器を作る⇒小さい時に身近に地元の伝統工芸に楽しく触れることが大事では…	<ul style="list-style-type: none"> ・漆を使った楽器をは作れることを確認 ・子どもたちに『漆塗り』の認知度についてアンケートをとる 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易な楽器を実際に作成し、保育園で使ってみてもらう ・小さい時に使った物を、大きくなっても使いたいと思うかをどう検証するか…
漆に興味を持ってもらうにはどうすれば良いか	漆を絵の具のように利用し、絵画にすれば、たくさんの人に興味を持ってもらえるのではないか	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代に漆絵はあったが、漆を使っていたのは一部だけだった ・色漆(顔料を混ぜる)を作れることが分かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味を持ってもらえるキャンパスや、形などについて研究が必要
会津塗の知名度を上げるにはどうすれば良いか	ブームになっているものとのコラボや、日常使える家電との融合により需要を高める(売れる)ことで、知名度が上がるのではないか	<ul style="list-style-type: none"> ・ブームになっているものとのコラボ⇒江戸切子(進撃の巨人とのコラボなど、江戸切子は様々なジャンルのものとコラボしている) ・家電との融合⇒パナソニック×山内うるし工芸による漆扇風機 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の売れ行きや、知名度の向上について調べる ・より会津塗の需要を高める物は何かを探求する
漆をもっと身近な存在にするためには？	公園の遊具やベンチ、外灯など様々な年代の人が利用する場所に置くことで、漆について興味を持ってもらえるのではないか	<ul style="list-style-type: none"> ・UV漆であれば、車にも使われているため、ベンチや遊具の素材にも使うことができるのではない ・公園は幅広い世代で利用されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・漆の遊具によって、若い子どもやその親が漆に興味を持つことを確認していく
子どもたちにも漆に触れてもらうためにはどうすれば良いか	子どもがよく使うものを漆に関係するものにしてはどうか	<ul style="list-style-type: none"> ・漆を使った食器はどうか ・おもちゃに活用するのは… 	<ul style="list-style-type: none"> ・漆食器の売れ行きを確認する ・実際に漆塗りを体験したい
会津漆器の技術を使って漆を若者に身近にするためには？	会津漆器の技術×布⇒制服の生地に使うことができれば、日頃の私服にも取り入れ、さらに海外進出もできるのでは？	<ul style="list-style-type: none"> ・布胎漆器の技術で服に取り入れることができるのでは… 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にどのような素材であれば漆の技術を取り入れることができるのか確認していく

プロジェクト名: コロナ禍における経済活性化策を考えるプロジェクト

探求課題	解決方法の仮説	仮説の検証結果	次年度に向けて
<p>コロナの中、商店街のお店を倒産させないために行政側はどのような補助ができるのか</p>	<p>市でも行われている『スタンプラリー』を大人だけでなく、中高生や子ども、高齢者も参加できるものにすればお店に活気が戻るのでは</p>	<p>・京都府精華町ではアプリを使ったスタンプラリーが実施されている ・『スタンプラリー』をスマホで行えるようにすることで、台紙の紛失や、どこへ行けばいいか分からない(スタンプポイントが分からない)という問題点を解決できる ・スマホで行うと、プッシュ通知を入れることができるので、他の企画でも活用することができる ・ポイントを貯めるとお得になるため、常連客を増やすきっかけになる</p>	<p>・高齢者はITに疎いため、アプリの使い方を説明しなければならない? ⇒LINEは多くの人が利用しているため比較的使いやすいのでは... ⇒ガラケーの人はそもそもLINEが使えない? ・若者向けには対策は必要ないか? ・スマホを使いながらも、人と人との触れ合いが無くならない方法を検討する ・多くの人に知ってもらう方策を考える ・若者が訪れたい企画にする(SNSでの発信など)</p>
<p>感染予防しながら、安心して観光したり、旅行したりするにはどうすれば良いか</p>	<p>・完全予約制にすることで、来店回数を調整でき、来店者の密を避けることができる環境を作る ・紙のパンフレットを撤去し、デジタルパンフレットの案内ヘシフトするとともに、そこからオンライン予約へ誘導できるのでは ・入口へのサーモグラフィの設置と消毒、マスクの着用の徹底 ・他人と共有する可能性がある備品はできるだけ減らす</p>	<p>・4月からJRで観光客に対して呼びかけをしていた ・安心感を与えることができるよう目に見える感染対策をしていた ・1か所だけでなく、街や市で一体となってい、それをPRすることが出来れば、有効だと思う ・私たちが今できることをする!</p>	<p>・自分が旅行をする時などに、『こういうのがあればいい』と思うものをピックアップして感染対策を考えていく</p>
<p>コロナで減った観光客を呼び戻すには、市を活性化(再構築)するにはどうすれば良いか</p>	<p>会津若松市が行っている事業(スタンプラリー、商品券)をより良くするために、さらに何をすべきか⇒コロナ対策を万全にしたお店に行くのと得をする(例えば:商品券をもらえる) ...この事業を行うメリット、デメリットは?事業を実施できるか?</p>	<p>・他県でコロナ禍でも経済を安定させることに成功した事業を調べる ⇒山形県:山形プレミアム観光券...電子クーポンのメリット、デメリットについて考察(紙のクーポンも利点がある) ・現在、市が行っている事業(スタンプラリー)の改善点を探求する ⇒不正が行われることや、説明の時間がとられるなどの問題点もあったが、お客様は割引券やクーポンがもらえて嬉しい ・他の県に無い会津若松の政策を考えてみる</p>	<p>・事業者側、市側から見た活性化案を探求したので、町の人、店側からの視点で案や策を考える ・自分が考える政策を行うために、まずは何が重要か考える(メリット・デメリット) ⇒活性化への案を考えていく</p>

探求課題	解決方法の仮説	仮説の検証結果	次年度に向けて
<p>コロナ禍において、小売店を通して経済を活性化させるためにはどうすればよいか</p>	<p>店や行政が連携して、基本的な目に見えるコロナ対策を徹底して伝えることで、客や消費が増加し、人との接触を減らしながら売上を増加させることができ、経済が活性化するのではないか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えばお店ではキャッシュレス決済の導入や、オンラインショップの開設、SNSでの情報発信など ・行政と連携した買い物や観光に使えるポイント制度(ポイントを貯めると商品券に交換できる)など 	<p>・小売店の経営者への取材⇒飲食店への取材を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体の支援策の検討 ・他地域の事例をあげる 	<p>・店にアンケートをとり、現状やコロナ対策、課題、従業員の意識を調査する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小売業の景況感の推移を示す⇒活性化策の費用などメリット・デメリットを含めて考えていきたい
<p>会津若松市の飲食店を経済的に回復させるにはどうしたらいいか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店のSNS利用を増やして拡散してもらう ・現在市で行っている居酒屋をまわるスタンプラリーを居酒屋以外の店舗でも使用できるようにする ・感染対策の基準を満たしている店舗には、一目でわかるようにシールを配布し、目につく場所に貼ってもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・市で行っているスタンプラリーに追加⇒加盟してくれるところでも使える割引券の配布を行う。LINEで位置情報を入れると今の自分の位置からおすすめの近場の飲食店を表示できる機能をつける。SNSで#をつけてストーリーに投稿することで、割引券やお菓子などの特典がもらえるようにする ・感染対策シールの配布⇒東京では偽物なども出回ったため、シールにQRコードをつけて店の対策が十分かどうか、改善して欲しい店などを書けるページを作り、市、県で確認できるようにする・・・感染対策の徹底につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・他県、他市町村でLINEやSNSを活用した事例を踏まえ、効果を検証する ・シールがあることで、店に行きたくなくなるかを検証する